

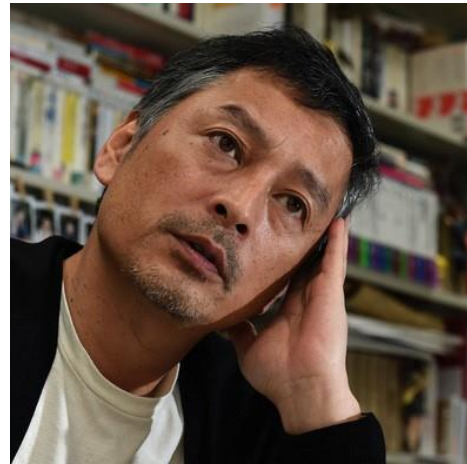
令和2年度（第69回）「神奈川文化賞」「神奈川文化賞未来賞」 及び「神奈川スポーツ賞」の受賞者プロフィール

神奈川文化賞

しまだ まさひこ
島田 雅彦 (59歳)

●文学●

小説や戯曲等の創作活動による文学振興への貢献



小説家として、多年にわたり数多くの作品を発表するとともに、軽快な文体のエッセーでも活躍。

1961年東京都生まれ。1965年から川崎市に居住しており、同市を拠点に活動している。東京外国語大学外国語学部ロシア語学科在学中の1983年に「優しいサヨクのための嬉遊曲」でデビュー。その後、野間文芸新人賞、泉鏡花文学賞、伊藤整文学賞など数々の賞を受賞している。2020年に第71回読売文学賞を受賞した「君が異端だった頃」は、川崎市で過ごした学生時代のエピソードなどが語られる自伝的小説である。

戯曲やオペラの脚本など音楽作品も手掛けており、2006年に台本を手掛けた「Jr. バタフライ」は、オペラ発祥の地、イタリア・トスカーナ州トッレ・デル・ラーゴの「第52回プッチーニ音楽祭」で上演。この音楽祭での日本人によるオペラ上演は初めてだった。

また、法政大学国際文化学部で教鞭を執り、教育現場でも活躍している。

2008年 芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。（「カオスの娘」により）

2016年 第70回毎日出版文学賞を受賞。（「虚人の星」により）

2020年 第71回読売文学賞を受賞。（「君が異端だった頃」により）

[川崎市]

神奈川文化賞

いけべ しんいちろう
池辺 晋一郎 (77歳)

●芸術●

作曲家及びホール館長としてクラシック音楽文化の振興及び普及に尽力



(C)東京オペラシティ文化財団／撮影：武藤章

日本を代表する作曲家としてメッセージ性のある創作活動を展開。日本音楽コンクール、日本アカデミー賞最優秀音楽賞、国際エミー賞、尾高賞などを受賞し、その作品は高く評価されている。主要作品は交響曲 No. 1～10、オペラ「死神」など。黒澤明監督、今村昌平監督作品やNHKの大河ドラマなどでも作品世界を豊かにする音楽を数多く作曲した。

2007年4月から2020年3月の長きにわたり横浜みなとみらいホールの館長を務め、音響やステージの見やすさにこだわり、首都圏でも人気のホールに育てた。音楽に関する深い知見を生かした「気軽にオペラ！」企画など、クラシック音楽の間口を広げる活動を積極的に展開した。近年では、2019年に企画・監修した「ハチャトゥリアン・コンチェルト」が大きな話題を呼んだ。

また、1996年から13年間、NHK教育テレビ「N響アワー」の司会を担当し、広くクラシック音楽の面白さを伝えた。

1984年、1990年、2009年 日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞。

2004年 紫綬褒章を受章。

2011年 横浜文化賞を受賞。

2018年 文化功労者に選出。

[東京都]

神奈川文化賞

おおや のり

大矢 紀 (84 歳)

●芸術●

作品制作や後進育成を通じ、日本画の向上発展に尽力



「生命の胎動」をテーマに、雪山や火山など壮大な自然、山岳風景や花を描く日本画家。

1936年に新潟県三島郡（現長岡市）で生まれ、近代日本画壇を牽引した一人である前田青邨に師事。1955年に日本美術院に初出品した作品が初入選し、その後も院展を始めとする数々の美術展において、多くの賞を受賞。2014年には総理官邸に3作品が飾られるなど、現在も第一線で活躍している。

1967年に川崎市に転居して以来、かわさき市美術展審査員、神奈川県美術展委員を務めるなど、県内における美術の振興・発展に尽力。2004年に川崎市文化賞を受賞、2017年から川崎市市民文化大使を務める等、川崎市のイメージアップに貢献している。

また、故郷の新潟県において子ども向けの絵画教室を毎年開催するなど、美術の普及活動にも長年取り組んでいる。これまでゆかりのある学校や施設等に多くの作品を寄贈し、紺綬褒章を7回受章。

2004年 第33回川崎市文化賞を受賞。

2005年 第90回院展にて「煌」で文部科学大臣賞を受賞。

2008年 第93回院展にて「浄」で内閣総理大臣賞を受賞。

[川崎市]

神奈川文化賞

すずき ち え こ
鈴木 智恵子 (91歳)

●産業●

かまぼこ製造業に係る食品産業・食文化・地域経済への貢献



家業から発展したかまぼこ製造業などの経営に長年携わり、本県をはじめ、日本、世界の食文化や地域経済の発展に貢献した。

1952年に株式会社鈴廣蒲鉾店に入社。1987年から1996年まで代表取締役社長、以降は代表取締役会長として現在まで鈴廣グループを率いている。

同社は、伝統を守りながら消費者の嗜好の変化や多様化に応える形で商品を開発しているほか、かまぼこ作りの体験や歴史を学べる「かまぼこ博物館」の開業、地ビール「箱根ビール」の製造など多彩な事業展開を行い、かまぼこを基軸とする食文化の普及を図り続けている。ゴミとして捨てられていたかまぼこの板に絵を描いてもらう「板絵コンクール」を1982年から開始、1997年から神奈川県の森林づくり事業に民間企業ボランティアとして参加するなど、長年にわたり環境保護への取組を推進してきた。

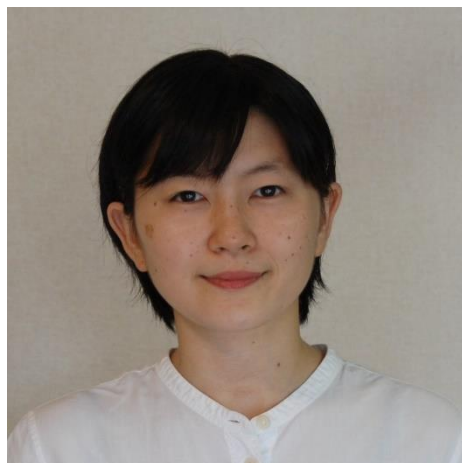
また、長年にわたり、小田原商工会議所副会頭、小田原商工会議所女性会会長や、民間人として初の小田原市観光協会会長、小田原市観光協会名誉会長などを務め、地域経済及び観光振興、発展に尽くした。

2008年 旭日単光章を受章。

[小田原市]

神奈川文化賞未来賞
さくらい まりこ
柵瀬 茉莉子 (33歳)

●芸術●
縫いの作家として活躍



ひと針ずつ素材を縫うという手作業を通して、自然物に刻み込まれた時の記憶をたどり、その記憶を目に見えるかたちで留めるように制作を行う。「縫う」ことで「時間を視覚化」することをテーマに、木の皮に糸で縫い目をつけた美術作品、花や葉を布に縫い留める作品などを制作。

制作だけでなく、『庭をぬいぬい』今を記憶するワークショップ(鎌倉・旧和辻哲郎邸、2018年)、「出張授業『ぬいの実験室』」(横浜市芸術文化教育プラットフォーム主催事業「アーティストが学校へ。」、2018年)のように、市民参加型のワークショップや児童を対象とした体験授業を実施するなど、教育分野での美術文化の向上にも貢献している。

また、県外においても、アートとリノベーションで古民家を再生させる滞在制作「蚊帳の家プロジェクト」(山梨、2018年～)に参画し、アート制作を行う等の活動をしている。

神奈川県で生まれ育った氏は、横浜市を中心に、多くの作品を生み出しており、今後、神奈川県のアート文化の向上発展に大きく寄与することが期待される。

2011年 U35サポートアワード(日本文化芸術機構主催)ギャラリーパリ賞を受賞。

[横浜市]

神奈川文化賞未来賞

しばの とらまる

芝野 虎丸 (20歳)

●文化活動●

囲碁棋士として活躍



写真提供：日本棋院

相模原市立鶴園小学校3年生時に、2歳上の兄で、同じプロ棋士の芝野龍之介二段とともに、洪清泉棋士主宰の道場に通い始め、2014年夏季に入段。

2017年に第26期竜星戦で優勝し、タイトル獲得により七段へ昇段。入段から2年11ヶ月での全員参加の棋戦優勝は、井山裕太氏を更新する史上最短記録。同年、第42期新人王戦に優勝。

2018年第4回日中竜星戦で、中国ナンバーワン棋士を破り優勝。

2019年に史上初の10代名人、七大タイトル最年少獲得。名人獲得により九段へ昇段。また、王座奪取により、史上最年少での二冠を達成した。

2020年十段を奪取し、最年少最速三冠を達成した。

一力遼氏、許家元氏とともに、令和時代に活躍が期待される「令和三羽鳥」として注目を集めている。

2017年 竜星戦優勝

2019年 名人獲得 九段昇段、王座奪取、史上最年少で二冠達成

2020年 十段奪取、史上最年少最短で三冠達成

[東京都]

神奈川県スポーツ賞

かぎやま ゆうま
鍵山 優真 (17歳)

●フィギュアスケート●



今年1月に行われたユースオリンピック冬季競技大会フィギュア男子種目で見事優勝を果たした。この大会は、4年に一度行われるユース世代最高峰の大会である。

ユース世代の大会に加えてシニア大会に出場し、2019年12月に行われた全日本フィギュアスケート選手権大会では、平昌オリンピックメダリストの宇野昌磨選手と羽生結弦選手に次いで3位の表彰台に上った。特にフリースケーティング単独では、2位の好成績であった。

全日本選手権の成績により、今年2月に行われた四大陸選手権の代表となり、シニア主要国際大会初出場ながら3位と健闘を見せた。国内にオリンピックメダリストが多数存在する中、ユース世代でありながら、シニア主要国際大会で入賞した功績は顕著である。

日本スケート連盟の強化選手として2019年度は強化選手Aであったが、2020年度は特別強化選手に昇格した。男子フィギュアスケートの特別強化選手は前述の宇野昌磨選手と羽生結弦選手と合わせて3名のみである。また、JOCオリンピック強化選手にも指定され注目が集まっている。

現在は星槎国際高等学校横浜に通学しながら、今シーズンの大会出場に向けて練習拠点の横浜市内のアイスアリーナで準備している。

ユース世代で世界一の称号を勝ち取り、世界を舞台に活躍しており、2022年の北京オリンピック冬季競技大会をはじめ、今後の活躍が大いに期待される。

[横浜市]